

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市サンホーム
2	指定管理者	特定非営利活動法人 グループゆう
3	指定期間	平成29年4月1日から平成33年3月31日まで（4年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・平成29年度 2,919人（前年比 99%） ・平成28年度 2,943人（前年比122%） ・平成27年度 2,412人（前年比 89%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 60,123千円（60,360千円） ・その他市が負担した費用 3,300千円（50,480千円） 《収入》 ・使用料収入 30,490千円（15,866千円） ・その他収入 0千円（39,800千円） （ ）は前年度決算額
		《実施状況》 ・平成30年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、45人/47人中（95.7%）の回答を得た。 ・施設の利用に関し、大変満足又は満足が93.8%、不満との回答は1.3%だった。
6	利用者の声	《実施状況》 ・平成30年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、45人/47人中（95.7%）の回答を得た。 ・施設の利用に関し、大変満足又は満足が93.8%、不満との回答は1.3%だった。

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解し運営にあっている。 児童館との合築施設であることから、交流する機会も多く、共同行事を開催するなど連携して児童の支援にあっている。 また、卒園児の進路先への情報提供等を行ったり、卒園児も参加できる行事の開催や家族の学習会や交流会を行い、継続支援を行っている。	S
II	施設の運営管理体制	施設の運営管理は協定書・仕様書に基づき適正に行われている。 法人全体で毎年年度当初に研修を行うなど個人情報保護の取組みを推進している。 避難訓練や防災訓練等については、適切な実施についてなお一層の取組みが求められる。	A
III	施設・設備の維持管理	施設・設備は概ね適切に管理されている。 清掃・衛生管理は適切に行われており、また段差にスロープを製作し設置する等、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。	S
IV	サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、職員会議・研修等により人材育成を図るとともに情報共有に努め職員全体でのサービス向上を目指している。 事業者独自での利用者アンケートを学期の節目や行事の都度実施し、運営に対し常に改善を心掛けている姿勢がうかがえる。	S
V	施設固有の基準	個別支援計画の記録は詳細であり、個別支援計画の内容を保護者へ説明して、承諾を得ている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	給食の実施	食育指導として、年4回の給食を実施した。 食べ物を育て、食材にして大勢で味わう体験や、食べたことのない食材等へ挑戦し、保護者の弁当以外でも食べられる食物を緩やかに増やす取組みを行った。 こうした取組みについてアンケートを行い、指導内容に反映させるなど積極的な姿勢は高く評価できる。
2		
3		
加点評価		A

四 評価総括

《指定管理者（グループゆう）による自己評価》
<p>◇発達支援について 個別対応の「おひさまタイム」を新たに設け一人ひとりの特性把握の為の個別プログラムを実施した。個々の得意な事や最も理解し易い伝え方を支援者・保護者が共有する機会になり、子どもが見通しを持って行動する姿が増えた。日々の療育で、子どもの発達段階や特性、興味に応じ、クラスを横断してプログラムを共有し、時間枠等も柔軟に取り組んだことで、個々の課題解決や子ども相互の交流の幅の広がりに繋がる効果があった。</p> <p>◇家族支援 期ごとに担任と保護者のグループワークを行い、子どもの発達や特性を相互に伝え合う場を持つことで、互いの子どもの発達や特性理解が深まり、我が子だけでなく周りの子どもへの適切な関わり方に繋がっている。また、家族参観や勉強会で父親同士のグループワークを行い、家庭での子どもとの向き合い方や役割を見直す機会に繋げる事が出来た。また「母子分離」や「預かり保育」を実施し、次の集団への準備と自信、家族の休息の機会になった。加えて、緊急性の高い預かりを実施したことは、家族のメンタルサポートに効果的であった。</p> <p>◇センターの取組み 児童発達支援センター化の一年目として、地域にセンター開所や事業の周知を行うとともに、関連機関訪問や地域からの相談を受け、情報提供や関係機関との橋渡しを行うことができた。またサンホームセミナー「困り感に寄り添う支援」も、対象を広げて実施し、支援者との顔の見える関係作りや支援力アップに繋がった。</p> <p>◇食育の取組み 畑の野菜の収穫や、4回のお弁当給食を実施した。また、作業療法士による、姿勢や器具の使い方を含む食事指導は「食べやすさの基盤」になっている。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われていた。</p> <p>隣接の児童館等、地域との交流・連携促進を積極的に図り、地域の療育期間としての役割を果たすための取組みに努めているほか、当該年度からのセンター化に伴い地域相談体制の強化に向けた取組みも実施している。</p> <p>また、施設独自の取組みとして食育に力を入れて療育内容の充実を図っているほか、家族支援や卒園児支援についても熱心に取り組んでいる点も評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課